



in アースデイ東京 2014

choroko (チャロコ)とは、
スウィーティで「緑豆」という意味。
おまの環境への取り組みが、
芽吹き、ぐんぐん育つことを
願って名付けました。

愛しく思うものが、ふえてゆく暮らしへ。

毎日の中で、気づいていくこと。

季節の息づかいを感じたり、自分を囲むものへ思いを馳せてみたり、自然と寄り添い、未来への意識を高めていくことが、これからのエコアクションにとって、とても大切なことなのではないでしょうか。新聞やネットで目にした地球環境のニュースを話題にしてみることなども、その一つになるのかもしれません。毎日の生活の中で、ものや人の聲が、今よりもうつつと、心を響かせる。そこから芽生えた、何かを動かそうという気持ちをきっかけにして、少しずつ出来ることに取り組んでみる。そんな、毎日の暮らしにそっと寄り添うような変化の広がり、互いに思い合える豊かな暮らしへと、繋がっていくのではないのでしょうか。

私たちが考える、等身大の環境活動。

ルミネでは、環境について考え、行動するためのプロジェクトとして、2011年に「choroko-チャロコ-」を発足しました。情報発信ツールとして「ecoshare-エコシェア-」を発行したり、社内を出て、ビーチクリーンなどの体験活動を行ってききました。昨秋には「chorokoまつり」というエコフェスタを、ルミネ北千住の屋上で開催するなど、私たち自身が興味を持って取り組める等身大の環境活動を進めてきました。今年も参加した「アースデイ東京2014」では、洋服などのハズレを使った、サシェという香り袋のワークショップを開催しました。多くのお客さまにご参加いただき、その熱い思いは、さらなる活動へのモチベーションを育んでくれました。

みんなで、新しい暮らしの価値を。

環境や社会に良い商品を選ぶお客さまが少しずつ増えています。何気ない暮らしの中に、もう少し目を向けてみる。それはきっと、自分にとっても大切で愛しく思えるものが増えてゆく暮らしへと繋がっていくのではないのでしょうか。ものを長く大事に使う。人との関係を丁寧に結ぶ。そんな当たり前に思われることを大切にしたい暮らしを積み重ねていった先に、環境や社会にやさしいライフスタイルがあるのだと思います。ルミネの環境活動は、まだまだ小さな取組みですが、環境や社会に良い未来を紡ぎ出すと共に考え、そして繋いでいけるきっかけになればと考えます。それが、私たちルミネが目指すエコ活動です。